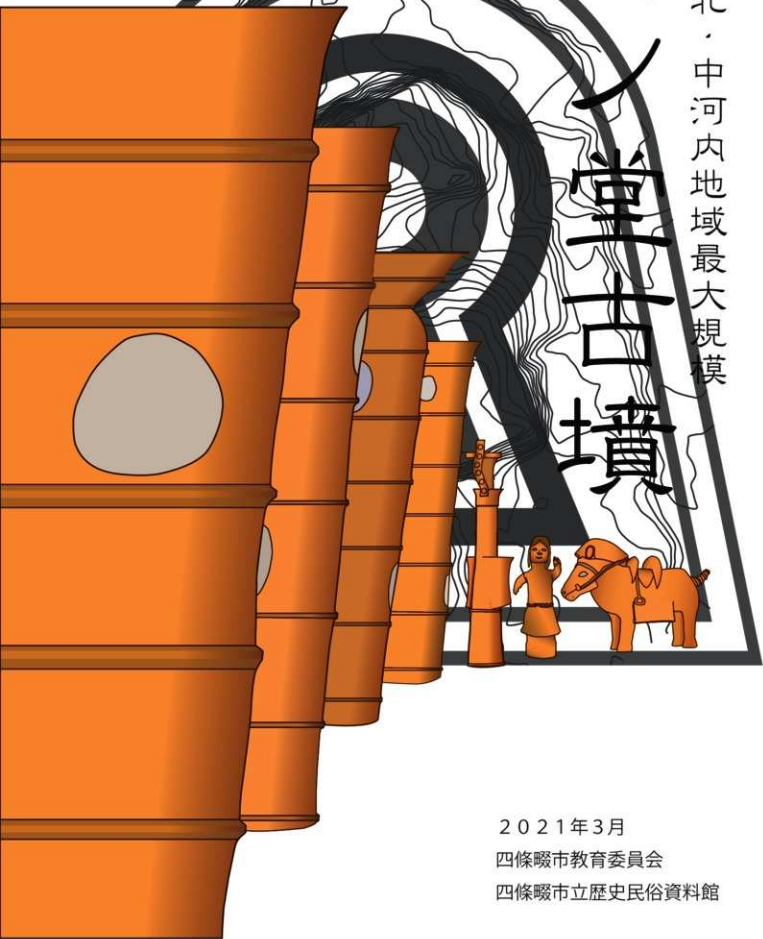


墓

北・中河内地域最大規模

堂古墳



2021年3月

四條畷市教育委員会

四條畷市立歴史民俗資料館

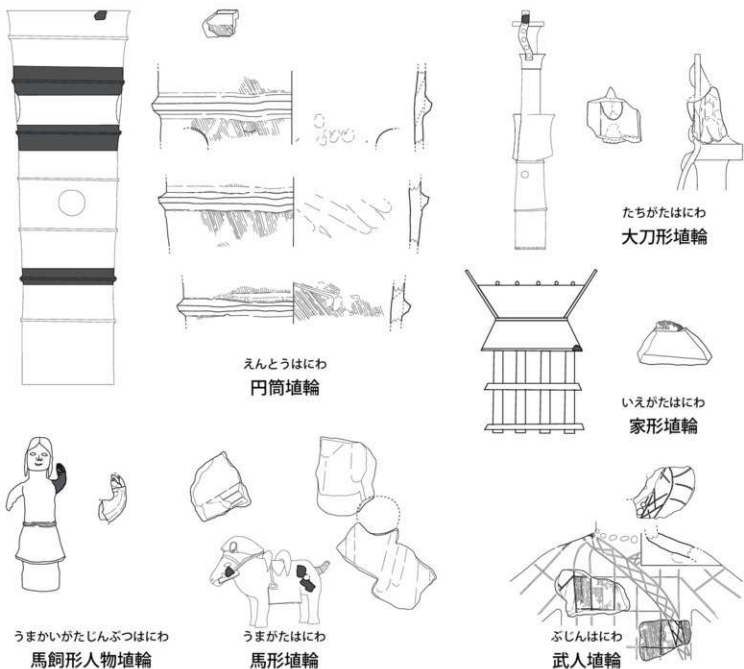
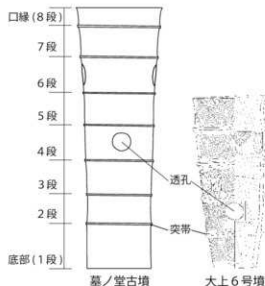


図1 墓ノ堂古墳出土埴輪 (1/10)

墓ノ堂古墳の円筒埴輪

墓ノ堂古墳出土の円筒埴輪は、5条6段以上の大型品を主体とすると考えられます。一方、ほぼ同時期に造られた大上古墳群の古墳では4条5段の小型品のみです。このことから、墓ノ堂古墳の大型品を頂点とし、それ以外の古墳では小型品の円筒埴輪が採用され、古墳に葬られた人の階級によって円筒埴輪の作り分けが行われていました。



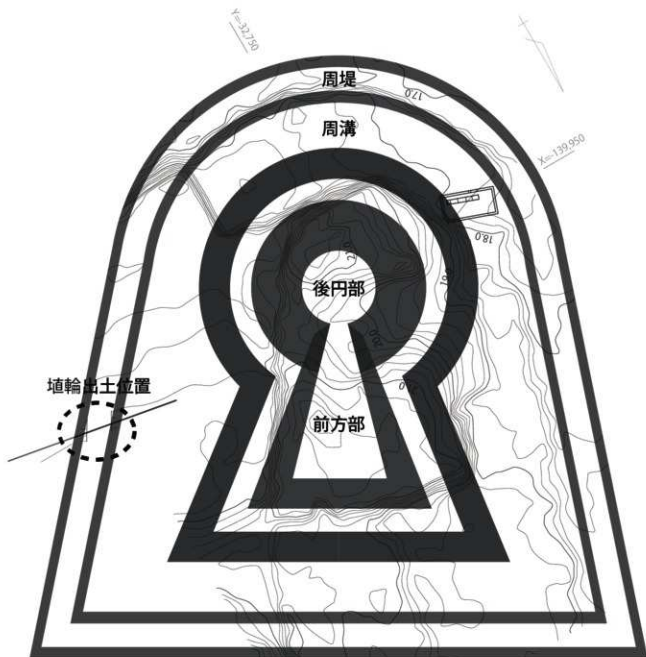


図2 墓ノ堂古墳復元図 (1/1000)

四條畷の大刀・劔形埴輪

四條畷市で大刀・劔形埴輪の存在が初めて明らかになりました。今回展示している墓ノ堂古墳出土の大刀形埴輪以外に、大上古墳群ではその可能性のあるものが16号墳で出土しています。また、劔形埴輪が大上古墳群と隣接する大溝から1点ずつ出土しています。大刀・劔形埴輪は、近畿地方では数十例のみで、大変珍しい埴輪です。



墓ノ堂古墳出土大刀形埴輪

概要

墓ノ堂古墳は、中野一丁目にある前方後円墳です。大上古墳群が所在する同一の微高地に、約1500年前の古墳時代に造られました。現在、中野共同墓地となり小高い高まりが残るのみです。周辺は宅地化が進み、西側部分では東高野街道として利用されています。

墳形

赤色立体地図などから検討を行い、墳丘長（古墳本体の長さ）約70m、後円部径47.3m、くびれ部幅約34m、前方部長22.7m、前方部幅約58mの前方後円墳で、周溝（古墳を囲む溝）と周堤（古墳を囲む堤）を伴い、墳丘と周溝と周堤を含めた全長約98m、最大幅約101mに復元できます。墳形は後円部に対して前方部が比較的短く、開いた形状をしています。

出土遺物

過去に行った立会調査でみつかった埴輪を再整理した結果、多くが東側周堤に立て並べられていたもので、円筒埴輪のほか、馬飼形人物・武人・馬・蓋（貴人が使用した傘）・家・大刀などの形をした多彩なものであることが判明しました。

まとめ

墓ノ堂古墳は、墳形や出土遺物から古墳時代後期初めに造られたことが分かりました。同時期では北・中河内地域最大で、高槻市の真の継体天皇陵ともいわれる今城塚古墳のように、周堤部分で多彩な形象埴輪を用いた“まつり”が執り行われていたと考えられます。さらに讀良地域で馬飼いを行っていた集団のお墓である大上古墳群の盟主（トップ）と考えられることから、継体天皇の擁立に関わりのある河内馬飼首荒籠のお墓だったかもしれません。



河内馬飼首荒籠・・・『日本書紀』継体天皇元年条に継体天皇の擁立に関わった記述がある人物です。また四條畷市周辺には、部屋北遺跡、奈良井遺跡をはじめとした馬飼いに関係する遺跡が多く分布し、この馬飼い集団のトップだったと考えられます。

墓ノ堂古墳

発行日 令和3年3月16日

編集・発行 四條畷市教育委員会

四條畷市立歴史民俗資料館

